

社団法人 日本循環器学会
2009年度第3回理事会議事録

日時 2010年(平成22年)1月22日(金) 14時35分～17時48分
場所 東京ステーションコンファレンス 605
〒100-0005 東京都千代田区丸の内1-7-12 サピアタワー6F

理事現在数：20名

出席：和泉 徹、小川 聡、小川久雄、北 徹、坂田隆造、島田和幸、島本和明、
下川宏明、高本眞一、鄭 忠和、友池仁暢、永井良三、堀 正二、堀江 稔、水野杏一、
室原豊明、山岸正和

欠席：児玉逸雄、土居義典、松崎益徳

その他出席者

監事：青沼和隆、今泉 勉

幹事：池田 義、川名正敏、白山武司、近森大志郎、寺崎文生、西垣和彦、野原隆司、
藤田正俊、堀内久徳、松森 昭、吉川 勉

オブザーバー：佐地 勉(日本小児循環器学会)、村松孝夫(財団法人日本心臓財団)、小林義典(日本不
整脈学会)

事務局：加藤安雄(事務局長)、清水光則、西口聖子、緒方淳子(事務局長代理)

・議事

第1号議案 事業報告・事業計画および収支予算案

- 1) 2009年度事業報告および2010年度事業計画
- 2) 2009年度収支補正予算案および2010年度収支予算案

第2号議案 公益法人制度改革について

第3号議案 新入会員承認

第4号議案 2010年度就任名誉会員・特別会員の推薦

第5号議案 委員会報告

- 1) 財務委員会
- 2) 用語委員会
- 3) 禁煙推進委員会
- 4) 教育研修委員会
- 5) 心臓移植委員会
- 6) 健保対策委員会
- 7) コメディカル委員会
- 8) 医療安全・医療倫理委員会
- 9) 情報広報委員会
- 10) 循環器救急医療委員会
- 11) 編集委員会
- 12) 専門医制度委員会
- 13) 学術委員会
- 14) 国際交流委員会
- 15) WCC 招致委員会
- 16) 学術集会プログラム委員会
- 17) 総務委員会

第6号議案 年次学術集会報告

- 1) 第74回年次学術集会報告
- 2) 第75回年次学術集会報告

第7号議案 委員会委員承認

第8号議案 その他

- 1) 新型インフルエンザに関係する心筋炎について
- 2) 日本不整脈学会の専門医設立に関する要望について
- 3) 未収金の現状報告
- 4) 理事会日程確認

・議事の経過及び結果

- 1) 定刻になり、小川理事長が議長となり開会した。
- 2) 藤田総務幹事から、出席者数は定款第 25 条の定数を満たし、理事会が成立していると報告があった。
- 3) 議長が、議事録署名人として第 74 回北会長と第 76 回鄭会長を指名し、了承された。
- 4) 藤田総務幹事から、配布資料および回覧資料の確認があった。
- 5) 資料に記載の 12 名の物故会員のご逝去に対して、黙祷が捧げられた。
- 6) 前回理事会議事録の確認がなされた。

第 1 号議案 事業報告・事業計画および収支予算案

- 1) 2009 年度事業報告および 2010 年度事業計画

藤田総務幹事から、資料の通り報告があり、異議なく全会一致で承認された。

- 2) 2009 年度収支補正予算案および 2010 年度収支予算案

野原幹事より、各々の予算案説明にあたり、既に予算委員会及び財務委員会にて審議検討されており、詳細については、事前送付している配付資料をご確認いただくよう報告があった。

また、今回の予算編纂にあたっては、各委員会からの申請のあった事業計画が理事会等未承認のものもあり、予算執行については、委員会での十分な検討、理事会承認等、しかるべき手続きを経て行うことを前提に企画されたものであることを説明、要請された。

次いで、予算案の概要について簡潔に説明され、特に次の点が確認された。

一般会計の、2010 年度当期収支差額のマイナスは、2009 年度の会員管理システム更改費用の一時金として取り崩し使用した「CPU プログラム作成基金」のリース契約による返戻分を組み戻すことによるもの。

専門医特別会計では、2010 年度の事業活動のマイナスの補填を「専門医制度整備・改革基金」の使用で賄うこと。

第 74 回及び第 75 回会長の学術集会特別会計は、申請通りとするが、第 75 回 2010 年度は例年同様、事業計画が明らかになる今秋に、予算を見直すこと。

各支部から申請の支部特別会計及び地方会特別会計は申請通りとするが、支部特別会計は、2010 年度より廃止予定の支部年会費徴収事務手数料について、補正を組むこと。

以上より、全 5 会計の 2009 年度補正予算案及び 2010 年度予算案が資料の通り示され、全会一致で承認、評議員会及び総会へ上程されることとなった。

第 2 号議案 公益法人制度改革について

小川理事長から、新しい公益法人制度への移行作業に関して以下の通り報告があった。

定款及び定款施行細則の変更案について、ホームページ及び会告で会員に対しパブリックコメントを求めたが、特に意見はなかった。今年 4 月頃以降から改定本文全体について公開する予定で、規約審議部会で準備を進めている。

従来の変更案の第 5 条(事業)について、実際の事業遂行や収支相償の実現を考慮し、従来よりも大きく括る案を作成した。

以上について、全会一致で承認された。

第 3 号議案 新入会員承認

藤田総務幹事から、2009 年 6 月 1 日から 2009 年 11 月 30 日までの新入会員 303 名が資料に基づいて説明され、全会一致で承認された。

第 4 号議案 2010 年度就任名誉会員・特別会員の推薦

議長から、2009 年度就任の名誉会員・特別会員の推薦について報告があった。討議の結果、特別会員として友池仁暢理事を理事会から推薦することが全会一致で承認された。なお今回は名誉会員への推薦はなかった。

なお、名誉会員・特別会員への推薦は、既に 65 歳を超えた方についても可能であることが確認された。

第 5 号議案 委員会報告

- 1) 財務委員会

北委員長から以下の通り報告があった。

資料 80 ページに示された 14 の基金のうち、目的を解消する 1 から 3 を除く基金内規について、公益目的保有財産として内部規程に盛り込むべき事項 3 点の確認と体裁等調整、見直しを行った。4 から 11 の基金内規は、資料 82 ページから 91 ページのとおり改正し、12 から 14 については、目的を集約し、新たに「循環器専門医制度整備・改革基金」として、資料 92 ページのとおりとした。1 月 15 日財務委員会に引き続き、監事による監査が行われた。

以上、 については、一部、誤植を修正することとし、全会一致で承認された。

2) 用語委員会

山岸委員長から以下の通り報告があった。

委員や会員から指摘があった点について、用語集改定の検討を行っている。

ICD-11 の改定作業は、渡辺副委員長を中心として準備を行っている。

日本医学会の用語辞典のオンライン版が、日循会員にも無償で使えるとの連絡があった。

以上について、全会一致で承認された。

3) 禁煙推進委員会

室原委員長から以下の通り報告があった。

来年度の税制改革の際、たばこの税率を上げていただくよう厚生労働省に要望書を提出した。1 箱 600 円程度までの値上げを要求したが、今回は 100 円値上げのおよそ 400 円で決着している。

禁煙市民公開講座として、日野原重明先生を含む先生方からご講演を賜る。また医師向けには、禁煙推進セミナーを資料に記載のメンバーで行う。厚生労働省からは森淳一郎先生にお越しいただくことが決まっている。

今年度中に、日本循環器学会、日本肺癌学会、日本癌学会と、新たに日本呼吸器学会が加わって、「禁煙治療のための標準手順書」第 4 版改訂の予定である。

以上について全会一致で承認された。

4) 教育研修委員会

堀江委員長から以下の通り報告があった。

2009 年 7 月 12 日(日)に「第 5 回循環器専門医を志す研修医のための卒後セミナー」を資料の内容で開催した。第 6 回は 2010 年 7 月 12 日(日)に千里ライフサイエンスセンターにて開催する。第 39 回循環器教育セッションの内、2 セッションのタイトル、座長案を委員会で審議し、次のとおり決定した。

「高齢者における循環器疾患」

座長案：大内尉義先生(東京大学加齢医学講座) 苅尾七臣先生(自治医科大学循環器内科)

「心疾患のリハビリテーション」

座長案：佐賀俊彦先生(近畿大学心臓血管外科) 野原隆司先生(北野病院循環器内科)

2010 年度製作分の循環器研修ビジュアルシリーズは、いくつかのタイトルがまだ進行中のため、「心臓ペースングの実際」監修：萩原誠久先生(東京女子医科大学循環器内科)1 本としたい。

以上について全会一致で承認された。

5) 心臓移植委員会

島田委員長から以下の通り報告があった。

今後小児移植医療への対応が増えることから、委員として中西敏雄先生(東京女子医科大学循環器小児科、日本小児循環器学会理事長)に就任いただくことになった。

2009 年 12 月 31 日現在の心臓移植および心肺同時移植適応検討の状況については資料のとおりである。心臓移植については年末で 66 例であったが、2010 年 1 月に 2 例実施されて 68 例となっている。現在ネットワークに登録して待機している患者は成人・小児も含め 148 名である。

小児移植も含めた心臓移植実施施設の認定審査を新たに行うため、心臓移植関連学会協議会にて「心臓移植実施施設の新規認定に関わる審査要領」を資料のとおり作成した。協議会参加学会にて確認後、申請受付を開始する予定である。

日本小児循環器学会から提示された「15 歳未満のドナーハートを 15 歳未満のレシピエントに優先的に移植する」要望案について検討し、その主旨に賛同することとなった。

以上について全会一致で承認された。

6) 健保対策委員会

和泉委員長から以下の通り報告があった。

厚労省から検討依頼のあった冠動脈ステントの適用に関して、内科系・外科系の担当者が集まって委員会を開催し、検討を行った。AMI と LMT について、「禁忌・禁止」となっているものを、慎重に使うという方向で許可してもらうよう意見書を作成し、厚労省に提出する。

平成 22 年度診療報酬改定について、2 次審査まで結果が出ている。外科・リハビリテーションは採用されているが、内科はあまり採用されていない。また内科の技術料についても認められていない。

アスピリンとダビガトランについて、要望書を提出する。

以上について、全会一致で承認された。

7) コメディカル委員会

水野委員長から以下の通り報告があった。

第 75 回 JCS 総会から、コメディカルセッションをコメディカル委員会で担当し、幹事校と協力して企画を行う。

コメディカル委員会の下にコメディカル・プログラム部会を設置する。

第 75 回 JCS 総会から、コメディカル賞をコメディカル委員会で運営する。口述演題の選考により 1 名に 30 万円を贈呈し、総会で表彰する。

チーム医療制度について委員会で意見交換を行った。これは制度・教育・報酬といった日本の医療制度全体にも関わる点であり、広く総合的な検討が必要であるという認識のもと、継続して検討する。

以上について、全会一致で承認された。

8) 医療安全・医療倫理委員会

永井委員長から以下の点について報告があった

前回議事録の確認。2009 年 10 月開催の本委員会議事録について資料の通り確認された。

臨床研究の利益相反について。「臨床研究の利益相反(COI)に関する共通指針」を共通とすることについて内科学会より賛否を問われた。検討の結果、賛同することとなった。この共通指針について、英文化すること、Q&A を作成することを内科学会に要請することとなった。また、2009 年 6 月より、理事長指示を受け、本委員会が利益相反委員会を兼任していたが、内科学会より「医療安全・医療倫理委員会が利益相反委員会を兼任するのは望ましくない」との指摘を受け、2010 年 4 月より、本委員会とは別に利益相反委員会を発足することが理事長のもと確認された。現在本委員会で作成中の本学会 COI 細則については、公益認定との兼ね合いからも、内容を慎重に精査すべきとの意見が示された。「内容を臨床のみに限定するのか、基礎を含むのか」の検討を含め、新しく発足する利益相反委員会に引き継ぐこととなった。

医師推薦について。警察署(茨城県警)、モデル事業東京地域事務局より依頼を受け、適任者を推薦した。

以上について全会一致で承認された。

9) 情報広報委員会

坂田委員長から以下の通り報告があった。

第 3 回プレスセミナーは 2009 年 9 月 25 日(金)東京都内で、高山守正先生を座長に「循環器の救急医療」をテーマに開催された。

第 74 回学術集会の際に、例年通り日循ブースが出展されることが資料の通り報告された。

「JCS Newsletter」海外ニュースについて翻訳原稿のクオリティの低さが問題となっている。「JCS Newsletter」から 3 年以上が経過しているため海外ニュースが本当に必要か、また会員の先生方の必要としている情報とは何かを調査するために、現在「JCS Newsletter」を受信している先生を対象にアンケートを行うこととなった。

第 4 回プレスセミナーの開催テーマを「脳死移植法案改正後の心臓移植」に決定した。座長は次期心臓移植委員会委員長に依頼することとし、日程は World Heart Day(9 月最終日曜日)に近い平日で開催する。また今後の新公益法人化に伴い、学会活動の広報が重要となってくるため、プレスセミナー開催時に各委員会からリリース内容を募り、情報広報委員長が選定して発表する。

以上について全会一致で承認された。

10) 循環器救急医療委員会

小川久雄委員長から以下の通り報告があった。

専門医試験受験者への ACLS 必修化や、受講料についての疑問に答えるため、2009 年 11 月 24 日付けで野々木宏副委員長と連名でメールニュースとホームページに資料のとおり声明文を出した。2010 年度の BLS/ACLS 活動の経費削減策を資料の通りまとめた。そのうち、他支部からインストラクターを招聘した場合の旅費・宿泊費相当額の本部から支部への補助はとりやめるが、北海道、北陸、九州の各支部はまだインストラクターの絶対数が少ないため 2010 年度も継続する。2009 年度で予想される一般会計収支差額から 3,000 万円を BLS、ACLS コース用マネキン等機材購入基金を設定することが認められたので、資料の基金規程案の承認を得たい。ただし、付則の「2010 年 4 月 1 日から施行する」を「2010 年 1 月 22 日から施行する」に修正したい。

以上について全会一致で承認された。

11) 編集委員会

下川委員長より以下の通り報告があった。

2009 年の投稿論文数は 1,019 編であった。内訳は Clinical Investigation (CL) 69%、Experimental Investigation (EX) 14%、Reviews 5%、Editorials 5%である。国内からの投稿が約半数で、他のアジア諸国からは引き続き増加傾向にあり、欧米からの投稿も増えつつある。2009 年の原著論文の採択率は、1 月 5 日現在で 23%であった。

学術集会講演 Late Breaking Clinical Trials の 5 演題の演者に執筆を依頼した。

日循学術集会と AHA の会期中に、合わせて年 2 回国際編集会議の開催を計画している。第 1 回目は第 74 回学術集会で開催する。

Best Reviewers Awards の算出方法を変更し、スコア上位 10 名に、感謝状と副賞を贈呈する。

Circulation Journal Awards の最終選考において、総合点の上位者より、各 CL/ EX 部門で最優秀賞 1 編、優秀賞 1 編が決定した。

査読体制の強化を図るため、統計学の専門家に編集チームに入っていただくことを引き続き検討していくこととなった。

以上について全会一致で承認された。

12) 専門医制度委員会

土居委員長が欠席のため寺崎幹事から以下の通り報告があった。

専門医制度推進支援事業 WG の近状について、来年度も引き続きの事業となったので 3 年間の予定で調査・報告を行なっていくことになっており、現在は海外の専門医制度の調査を行なっている。

調査が終了次第、順次報告を行なう。

資料のとおり、外科学会の新認定資格の名称が「外科認定登録医」と決定し、外科認定医からの移行措置期間は 2012 年 4 月の外科学会総会で承認後、3 年から 5 年を目途に設けられる予定であることから、外科系の基本領域資格を保持している循環器専門医についても移行措置期間は外科認定医と外科認定登録医の両方を基本領域として認める。

専門医試験結果の情報開示について、現在公開している情報に加えて受験者本人の総得点および合格点を合格・不合格通知に記載することとなった。2010 年度受験者より公開を実施する。

AHA ACLS プロバイダーコースが専門医受験資格として必修であることについて、救急医療委員会から回答書を受け取ったが、委員会で見直しの意見がでたため、次回委員会で救急医療委員会との意見交換の場を設けることにし、継続審議となった。また、その結果を理事会にて報告し、再度承認を得たい。

これまで、名誉・特別会員の専門医更新料が免除となっている件について、専門医は個人資格であるため、その資格を保持するために必要な更新料であるので、役職や年齢等に関係なく支払うことを更新の条件とする。

専門医試験受験者のための研修カリキュラム手帳(案)については、ほぼ案が固まってきており、次回理事会にて最終報告を行い 2010 年 4 月のダウンロード開始に向けて承認を得たい。

以上について全会一致で承認された。

13) 学術委員会

堀委員長から以下の通り報告があった。

2008 年循環器疾患実態調査報告書(2009 年度実施・公表)が作成された。今後は Circulation Journal 投稿や調査項目を増やし内容の充実を図る。データの二次解析を進めるため、友池仁暢ワーキンググループ主査に次期 2 年間の活動を継続していただき、具体的な案を検討いただく。

ガイドラインダイジェスト版ポケット版について、スポンサーからの広告を掲載して、2009 年度新規班および改訂版班を 4,500 セット作成する（第 74 回学術集会時のガイドラインセッション会場前で無料配布）。

2010 年度活動「成人先天性心疾患診療ガイドライン」改訂版の新班長に丹羽公一郎先生を決定した。

2008 年度活動「肺血栓塞栓症および深部静脈血栓症の診断、治療、予防に関するガイドライン」改訂版（安藤班）の参加学会に日本医学放射線学会を追加した。

日本のガイドラインを海外に発信する際に優先度の高い以下 4 つのガイドラインの英文化を進める。

- ・冠攣縮性狭心症の診断と治療に関するガイドライン（2008 年、班長：小川久雄先生）
 - ・川崎病心臓血管後遺症の診断と治療に関するガイドライン（2008 年改訂、班長：小川俊一先生）
 - ・心房細動治療（薬物）ガイドライン（2008 年改訂、班長：小川聡先生）
 - ・循環器診療における放射線被ばくに関するガイドライン（2006 年、班長：永井良三先生）
- 予防部会について、和泉徹部会長に活動内容を詰めていただく。

PCI 協議会（仮称）について、内科系は小川理事長、外科系は日本心臓血管外科学会理事長高本先生を筆頭に内科系、外科系各 5 名の委員が決定した。協議会名称などについて 2 月 8 日に第 1 回の会議時に決定する。各委員については、適応部分が策定されるまで、継続して活動することについても当協議会で決定する。

APSC から心不全レジストリーの提案については、大規模臨床試験として申請があった場合、学術委員会内で後援審議を行う。

以上について全会一致で承認された。

ガイドライン作成に関して、今後日本心臓病学会の協力を得て、JCS-JCC ガイドラインを作成してはどうかとの意見が出され、検討課題となった。

以上について、全会一致で承認された。

14) 国際交流委員会

鄭委員長から以下の通り報告があった。

第 75 回で表彰を行う国際名誉会員の検討を行い、Steven E. Nissen(アメリカ)・Thomas F. Luscher(スイス)・Tsui-Lieh Hsu(台湾)の 3 名に決定した。

2011 年 1 月 1 日から 2012 年 12 月 31 日の WHF の次期理事長・事務局長候補者について、WHF から各加盟国に推薦依頼があった。日本循環器学会からの理事長候補として小川聡理事長を、事務局長候補として下川宏明先生を推薦する。

海外への委員派遣に関する旅費規程について、改定の準備を行う。2009 年度第 4 回理事会にて規程案を国際交流委員会から上程する。

第 73 回基金の用途は、教育・若手の交流・堀会長から提案のあった学会本体が每期支出していないイレギュラーなものに対して使用することを含めて次回の委員会で検討を行う。

以上について、全会一致で承認された。

15) WCC 招致委員会

松森委員長から以下の通り報告があった。

2009 年 11 月 11 日付けで開催候補都市に調査依頼が届き、資料の通り回答を行った。懸案事項としていた 17 項目目の「財政」に関する項目「当会と WCC の会計を別会計にするかどうか」については、WHF の Mr. Adrian Ott が会場視察に来日した際に確認を行った。結果、別会計・合同会計の共にどちらでも問題ないと回答を得た。

2010 年 1 月 18 日及び 19 日に WHF の学術集会担当者 Mr. Adrian Ott が会場視察に来日された。総理大臣、厚生労働大臣、国土交通大臣、京都府知事、京都市長、商工会議所会頭、JNTO(Japan National Tourism Organization)、KICC(国立京都国際会館)館長、関西大使、京都コンベンションビューロー理事長の計 8 通が揃ったため、WHF に送付する。

予算案については、3 月の委員会で再検討を行い、理事会に上申する予定である。

以上について全会一致で承認された。

なお海外派遣時の予算執行のあり方について、意見交換が行われた。

16) 学術集会プログラム委員会

小川久雄副委員長から以下の通り報告があった。

2009年12月18日開催の学術集会プログラム委員会において、第75回学術集会（小川 聡 会長）におけるプレナリーセッション6題、シンポジウム24題、ジョイントシンポジウム4題のセッションタイトルならびに国内座長案が決定された。
以上について全会一致で承認された。

17) 総務委員会

小川聡委員長から以下の通り報告があった。

65歳定年制度によって2009年度で退任される評議員・正会員代表に代わって、2010年度から就任いただく評議員・正会員代表が各支部から推薦された。

日本動脈硬化学会からの学会賞推薦依頼は、候補者がなかった。

日本医学会の会長・副会長・幹事候補者の推薦について、現職の高久会長、矢崎副会長を推薦する。事務局組織を1月1日付けで変更した。

この3月の理事選挙について、75回会長と関東甲信越地区の理事1名とが一年間交代する。なおこの期間について、交代した理事はオブザーバーとして理事会に参加し、また各種委員長にもご就任いただく。ただし理事長の投票権はない。

75回JCS総会において、プレレジストレーションを導入する。原則クレジットカードの使用とし、事前と当日の参加費については引き続き検討する。

以上の報告を受けて意見交換を行った。

について、会長・副会長の両方に矢崎現副会長を推薦する。

について、クレジットカードと現金振込みの両方を使うことが可能かどうか検討する。

以上の修正の上、全会一致で承認された。

第6号議案 年次学術集会に関する件

1) 第74回年次学術集会報告

第74回学術集会北徹会長から以下のとおり報告があった。

会長特別企画として「メディカル・コメディカルジョイントシンポジウム」を開催し、永井良三先生、井上智子先生に座長と内容企画をお願いしている。

5つの「フォーカスセッション」を企画し、各セッションでは、半日かけて徹底討論をしていただく。

学術集会2日目の3月6日、20時10分から21時40分まで、ラボラトリーズ・ランという企画を行う。各国から著名な研究者が来られるので、将来的に留学を希望される方や、外国のラボがどうなっているか知りたい方々をお誘いし、軽食をご用意して、およそ4~5名の研究者を囲んでの意見交換の場を設ける。

京都駅に直結するホテルグランピアで、3月4日17時~23時まで前日参加登録を行う。その前日登録の場所で、19時~21時30分まで、スポンサー付きの3つの「プレセッション」を開催する。

できるだけ多くの方に前日登録を済ませていただきたいと考えている。

以上について全会一致で承認された。

2) 第75回年次学術集会報告

第75回学術集会小川聡会長から以下のとおり報告があった。

資料のとおり、美甘レクチャーにDr. Michael D. Schneider、真下記念講演に御子柴克彦先生を招請予定であり、特別講演の他、会長特別企画シンポジウムを企画している。また学術集会プログラム委員会で、プレナリー・シンポジウム・ジョイントシンポジウムの詳細を進めていただいている。

以上について全会一致で承認された。

第7号議案 委員会委員の承認

議長から、前回理事会以後に生じた部会の設置及び委員等の異動について資料の通り報告があり、全会一致で承認された。

第8号議案 その他

1) 新型インフルエンザに関係する心筋炎について

和泉徹特任委員から、新型インフルエンザ心筋炎症例について、松森昭先生と浮村聡先生（大阪医科大学総合診療科）の協力を得て、厚労省のインフルエンザ重症一覧と突き合わせ、協議しながらデ

ータ収集を行っているとの報告があった。

2) 日本不整脈学会の専門医設立に関する要望について

日本不整脈学会代表として小林義典先生(東海大学)から、専門医制度を新たに設立することについて JCS への協力要請があった。今後、正式な要請文書を受け取って、専門医制度委員会で検討していくこととなった。

3) 未収金の現状報告

事務局から、広告掲載料収入に未集金があり、13 百万円になっている。今後、これ以上の金額とならないよう慎重に対応し、未収金を逡減させる方向で交渉していきたいとの報告があった。

4) 理事会日程確認

議長から、今後の理事会の日程について資料の通りである旨、確認があった。

以上をもって本日の議事を終了し、議長から長時間の議事についての謝辞があり、閉会した。

上記の議事の経過及び結果を明らかにするため、この議事録を作成し議長並びに議事録署名人、これに署名押印する。

2010 年 1 月 22 日

社団法人 日本循環器学会 2009 年度第 3 回理事会

(署名)

(捺印)

議 長 小 川 聡

議事録署名人 北 徹

同 鄭 忠 和